

**Digicom**

Power over Ethernet Fader for ControlSpace

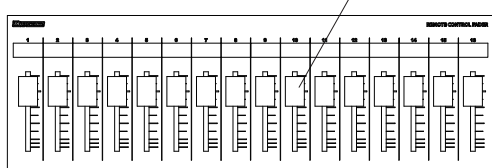
LF16C-PoE

取扱説明書

LFシリーズの特徴

LF16C-PoEはBose社のControlSpaceシリーズのミキシング機能の一部をコントロールすることが可能な設備用フェーダーユニットです。誤操作などを避けるため、ON/OFFスイッチや設定ボタンなどを搭載しておりませんので宴会場や会議室など、専任オペレータがいない場所でも簡単に扱うことができます。また、IEEE802.af対応のスイッチングハブと接続することによりACアダプターが不要になります。

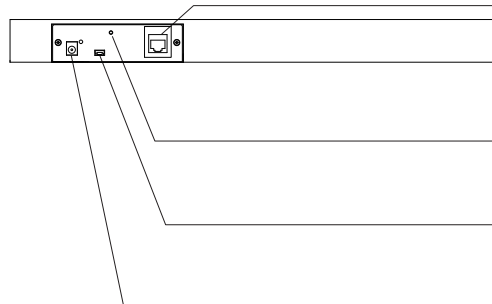
■フロントパネル



フェーダー

16ch分のボリュームをコントロールできます。
本製品はControlSpaceの通信プロトコルを使用しており、ControlSpace Designer内でGainをGroupに追加することにより音量をコントロールします。
ch1はGroup1、ch2はGroup2、同様にch16まで各GroupFaderをコントロールします。
設定方法に関してはマニュアルのP2をご参照ください。

■リアパネル



RJ45端子(PoE対応)

ControlSpaceのコントロールデータを出力します。
IEEE802.3af対応のスイッチングハブと接続することによりACアダプターが不要になります。
配線にはCAT5e以上のLANケーブルをご使用ください。

M3ネジ穴

DCプラグの抜け防止等に使用してください。

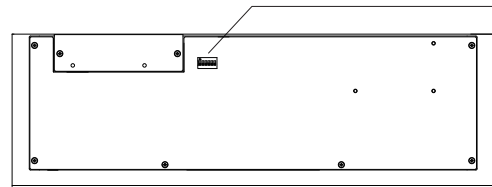
USB端子

ファームウェアアップデート用です。使用しないで下さい。

DC IN端子

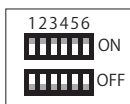
接続機器がPoE給電非対応の場合は、付属品のACアダプターを接続してください。
※PoE給電を受けている場合は、ACアダプターを接続しないでください。

■ボトムパネル



DIPスイッチ

- ①DIPスイッチをOFFでControlSpace用、DIPスイッチをONで各スイッチに対応したチャンネルがPowerMatch用に設定されます。詳細についてはP4をご参照ください。
- ②1台のControlSpaceに対してLF16C-PoEを複数台接続する場合、DIPスイッチの設定が必要となります。設定方法はP4をご参照ください。※複数台での接続は4台まで動作確認をしております。



IPアドレスについて(必ずお読みください)

LF16C-PoEのIPアドレスは192.168.0.201に設定されており、DHCP非対応です。
初期設定でIPアドレス192.168.0.160のControlSpaceシリーズをコントロールすることができます。
LF16C-PoEのIPアドレスを変更する場合や、コントロール先のControlSpaceのIPアドレスを変更した場合は同封の「フェーダーのIP設定方法」をご確認ください。

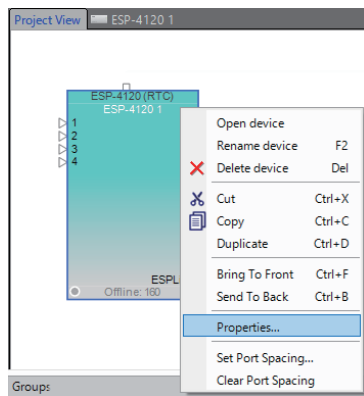
仕 様

出力端子	:RJ45
伝送規格	:TCP
イーサネット規格	:10/100BASE-T
PoE受電	:IEEE802.3af
IPアドレス初期値	:192.168.0.201
IPポート初期値	:10055
電源電圧	:9V / 0.3A
付 属 品	:ACアダプター
塗 装	:半艶黒
サイズ	:W410×D132×H36
重量	:2.2kg

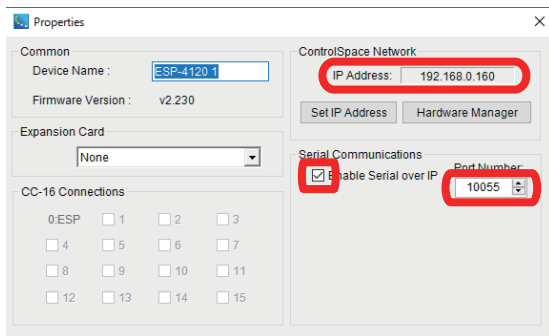
ControlSpace Designerの設定方法

※本マニュアルはソフトウェアバージョン 5.1.1での設定方法となります。

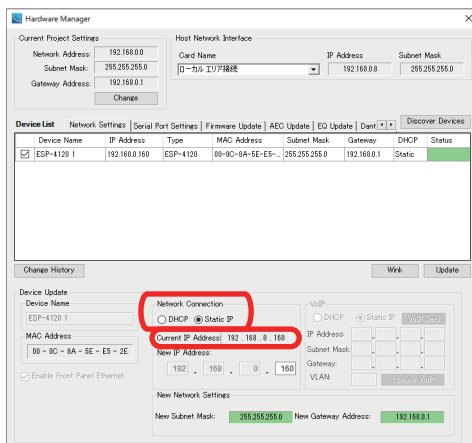
- ①ControlSpace Designerを開きProject Viewよりコントロールしたいデバイスを選択し、Propertiesを開きます。



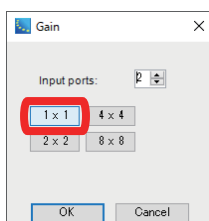
- ②Propertiesウィンドウ内のIP Addressを192.168.0.160に設定しSerial CommunicationsのEnable Serial over IPにチェックをつけPort Numberを「10055」に設定します。



- ③Hardware Managerを開きNetwork ConnectionをStatic IPにし、IP Addressを「192.168.0.160」に設定します。



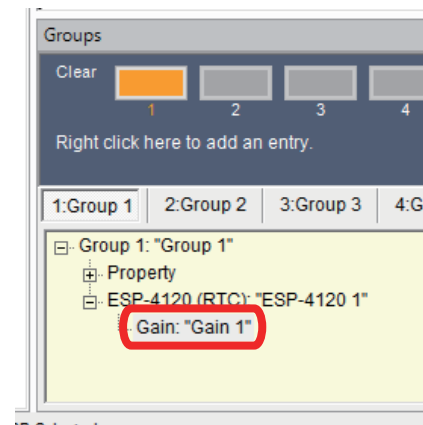
- ④コントロールしたいデバイスを開き、SP Tool KitからGainを必要な数追加します。
ここではGain 1 × 1を選択しております。



- ⑤各フェーダーに対応したGroupに、コントロールしたいGainを登録していきます。
各GainをGroupsウィンドウの任意のGroupへドラッグ&ドロップしSet Group Properties内のGrouping Typeで「Level+Mute」を選択してOKします。



- ⑥GroupsにGain1が追加されたことが確認出来たら、Gain2以降も同様にGroupへ追加します。



- ⑦GainとGroup XのFaderを表示し、コントロールするGainとGroupのレベルを同一に設定してください。

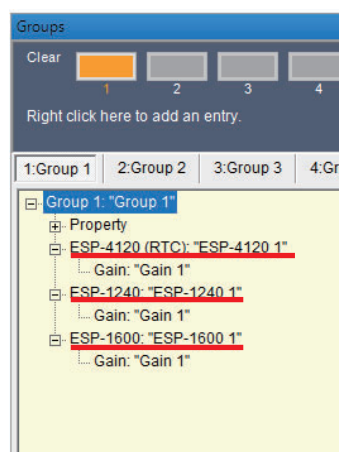
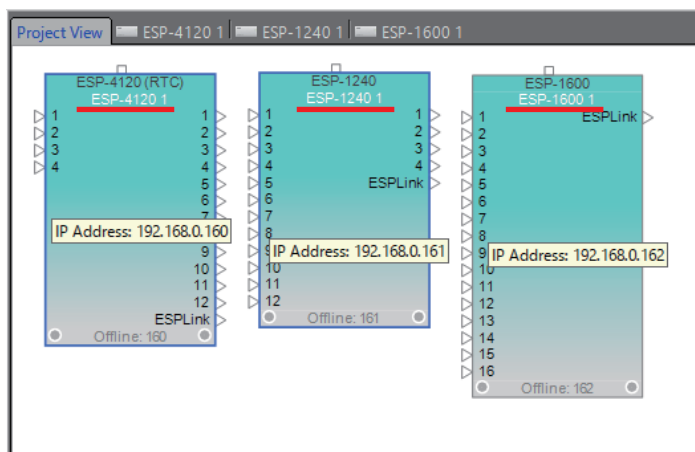


注意:LF-Cのフェーダーを操作する際、レベル差を保持したままコントロールされます。

■ 1 つのLF-Cで複数のControlSpaceをコントロールする

GroupはProjectにあるデバイス全てに共通するため、Project内に複数のデバイスがある場合、その中の1つが192.168.0.160であれば別のIPのデバイスもコントロールが可能です。

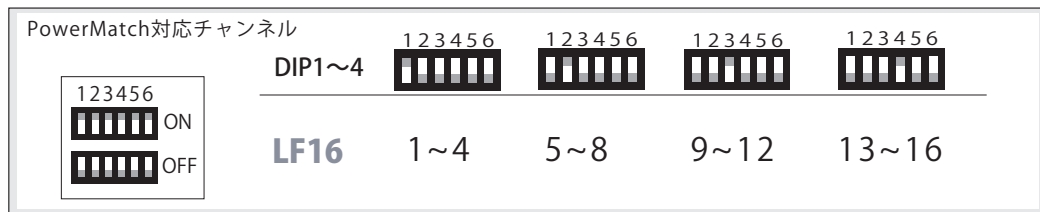
以下の画像のようにLF-C 1台でControlSpace 3台を操作することもできます。



DIPスイッチの設定について

■PowerMatch用設定

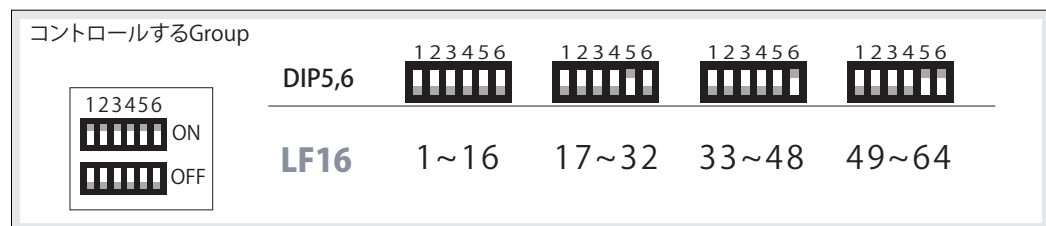
DIPスイッチをOFFでControlSpace用、DIPスイッチ1～4をONで各スイッチに対応したチャンネルがPowerMatch用に設定されます。



■1台のControlSpaceに対して、複数台のLF16C-PoEを使用する場合

1台のControlSpaceに対して、複数台のLF16C-PoEを使用する場合、DIPスイッチとIPアドレスの設定が必要となります。DIPスイッチ5, 6の設定により、コントロールするGroupの設定が異なります。詳しくは下記表でご確認ください。

LF16C-PoEのIPアドレスを変更する方法については、同封の「フェーダーIP設定方法」をご確認ください。



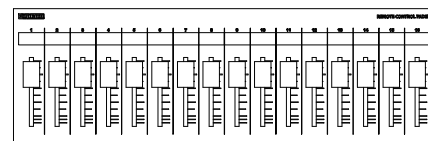
■複数台のLF-Cを接続する場合の設定方法

例) LF16Cを2台同時に接続する

- ① 1台目のLF16CのDIPスイッチ5,6をOFFに設定する。



LF16Cのch1でGroup1を操作、LF16Cのch2でGroup2を操作
以下同様にGroup16までとなります。



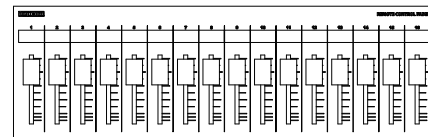
①Group1～16に設定される

- ② 2台目のLF16CのDIPスイッチを5のみONに設定し、IPアドレスを変更する。

フェーダーのIPアドレスを変更する方法については、同封の「フェーダーのIP設定方法」をご確認ください。



LF16Cのch1でGroup17を操作、LF16Cのch2でGroup18を操作
以下同様にGroup32までとなります。



②Group17～32に設定される

- ③各フェーダーのGroupへのアサイン方法は、P2をご確認ください。

※注意 誤動作の原因になりますので、以下の点にお気を付けください。

複数台のフェーダー間で、使用するGroupが重複しないようにDIPスイッチを設定してください。

組み合わせで使用できないDIPスイッチの例

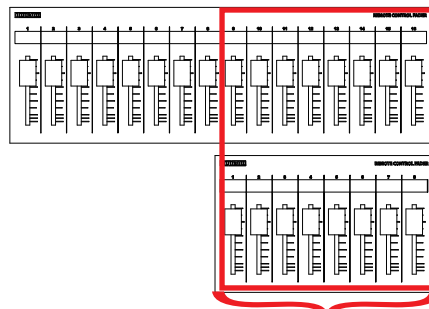
- 1台目のLF16CのDIPスイッチ5,6をOFFに設定する。

⇒Group1～16を操作

- 2台目のLF08CのDIPスイッチを5のみONに設定する。

⇒Group9～16を操作

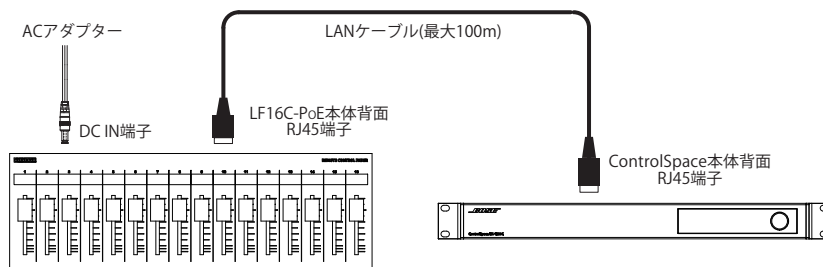
操作するGroupが重複してしまうので使用できません。



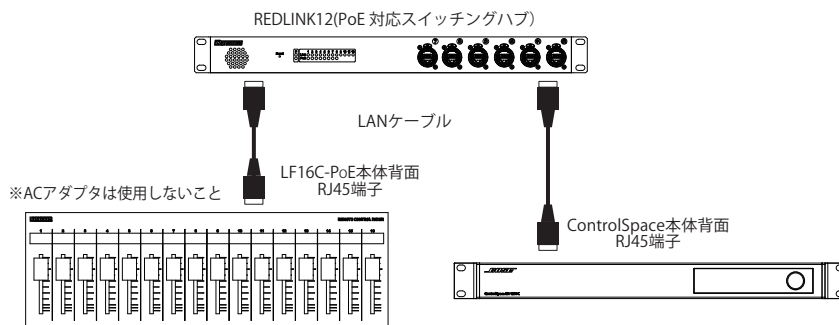
Group9～16が重複する

接続方法

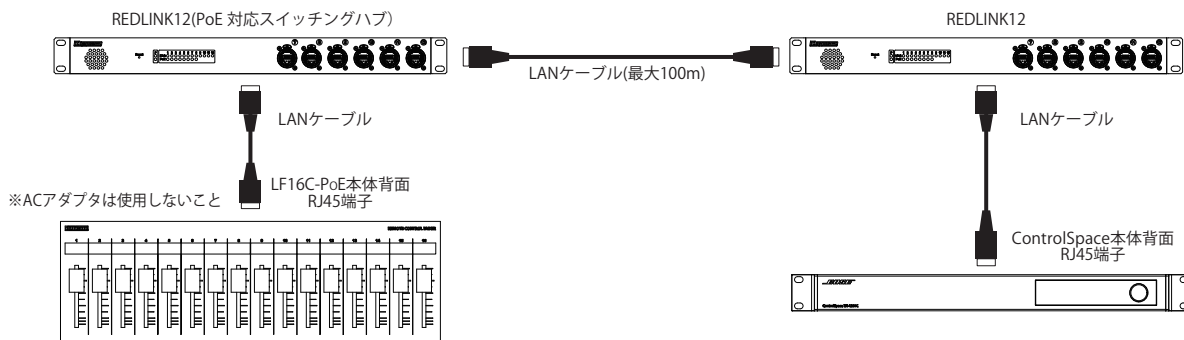
■基本接続



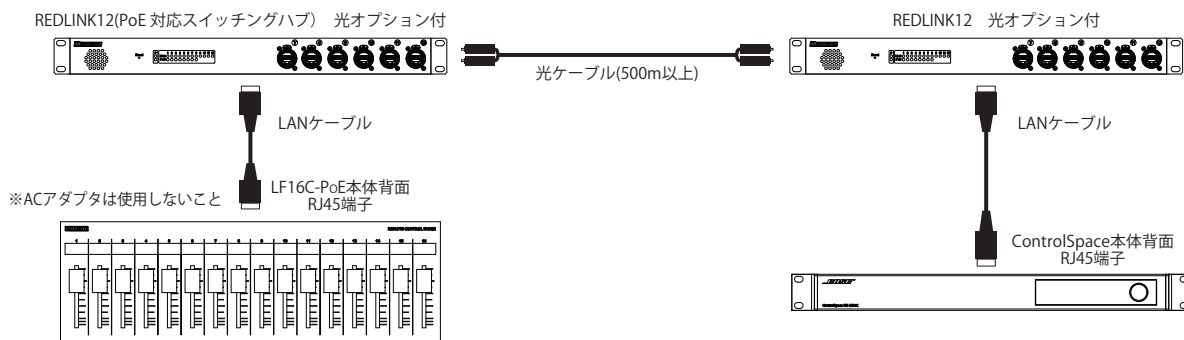
■スイッチングハブを使用した基本接続① (LANケーブル)



■スイッチングハブを使用した基本接続② (LANケーブル)



■スイッチングハブを使用した基本接続③ (光ケーブル)



■商品に関する注意事項

持ち運びする際、移動時に強い衝撃を与えないで下さい。
水のかかる場所や直射日光が当たる場所での長時間の使用は避けて下さい。
海浜部、温泉地帯など金属のさびやすい場所では本体や取付金具の耐久性が低下する場合がありますのでご注意下さい。
ラックマウントして扱う場合、正しく設置しないと落下する恐れがあります。
機材を引き出した状態で上下から負荷をかけますと事故や怪我の原因となります。
D-RACK1など引き出し付きの機器を収納する際、指を挟まないように注意して下さい。
万が一異音や異常、熱をおいた場合はすぐに使用を中止し電源を切り、メーカーまでご連絡下さい。

■保障に関して

本機にはシリアル番号で製造、出荷年月日が管理されており、保証書は添付されておりません。
万が一、故障した場合は製造日より1年間は無償で修理いたします。

※使用方法の誤りにおける破損・故障に関しましては有償となります。また、不適切な使用や改造による故障や怪我は補償いたしかねますのでご了承下さい。

■損害に対する責任

この商品の使用、または使用不能によりお客様に生じた損害については、当社は一切その責任を負わないものとします。
また如何なる場合でも当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになった商品の代価相当額をもってその上限とします。

お問い合わせ

有限会社Digicom

〒454-0012 愛知県名古屋市中川区尾頭橋3-11-15

TEL:052-324-8385 FAX:052-324-8386

E-Mail:info@e-digicom.co.jp

http://e-digicom.co.jp/